マーシャ・ハフィフ: Change and Continuity 1962 – 1974

ファーガス・マカフリー 東京
2022 年 9 月 24 日(土) – 11 月 6 日(日)

Fergus McCaffrey

ファーガス・マカフリー東京では「Marcia Hafif: Change and Continuity 1962 – 1974」展を開催します。本展は 2015 年以来ハフィフにとって弊廊での 4 回目の個展、また日本では初の個展となります。ハフィフは 69 年までの約 8 年間ローマに滞在。その後故郷のカリフォルニアに戻ると絵画を一時的に離れ映像、写真、サウンドインスタレーションの実験的な制作を試み、そして 1971 年にニューヨークに移住し再び絵画への回帰の道を模索するという、1962 年から 74 年はハフィフの生涯のなかでも最も変化に富んだ時期でした。

Untitled, 1962

1962 年ローマで制作された初期のドローイングは、ハフィフの制作において重要な垂直方向の筆跡の反復が初めに現れたもので、本展のスタートにふさわしい作品です。彼女は垂直の筆跡反復にキャリアを通じて何度も立ち返り、様々なメディアとの組み合わせによってその限界を試しながら、新しい結果を目指し続けました。

ハフィフは 1961 年から 69 年にかけ、後に「イタリアン・ペインティング」として広く知られる作品群を制作。ローマで過ごしたこの時期に制作された作品を後に作家自身は「ポップ・ミニマル」と呼びました。アクリルやスプレーを用いて描かれる作品は平面的でありながら、図の縁の境界線は緊張感をはらみ、地と図の関係性が揺れるようで大きな動きを感じさせます。スプレーペイントは当時、自動車製造に頻繁に使われる比較的新しい技術で、覆い隠された部分以外に絵具が付着するため、負の空間を作ることが制作行為となります。注意深く観察すると、表面に蓄積するかすかな擦れや絵具の溜まりが作家の手仕事を静かに物語っています。この偶然と介入、存在と不在の間の微妙な緊張感は、その後の長いキャリアにおいて重要な関心になっていきます。

1971 年ニューヨークに移り住んだハフィフは、当時絵画の存在意義が疑問視される状況のなか、再び絵画に立ち返ることができないかと考えました。鉛筆、アクリル、油、インク、エッグテンペラなどを用い、垂直方向の筆跡の反復により、様々な素材の検証を行うという方法論で制作を進めていきます。1974 年の水彩画シリーズでは斜めに置かれた画面に描くことで、水性の顔料に重力の作用を与え、扱うメディウム特有の性質を敏感に感知しています。ここでもやはり、偶然性と作家としての手の介入の両方による効果を検証しています。

Cerulean Blue, August 17, 1974, 1974

制作場所の地理的な移動だけでなく、鉛筆、ペイント、水彩へと扱うメディアも移行しますが、ハフィフは常に物質と空虚、偶然と介入の間に自身を見出しました。もっとも変化に富んだ時期の 3 シリーズに見られる展開、そして一貫して流れる、最もシンプルな絵画的要素に静謐に向き合う創作の姿勢を、ぜひご高覧ください。

3-5-9 Kita-Aoyama, 1st Fl Minato-ku, Tokyo 107-0061, Japan
Tel +81 (0)3-6447-2660 www.fergusmccaffrey.com

Marcia Hafif in Rome, 1962

マーシャ・ハフィフについて

1929 年アメリカ・カリフォルニア州ポモナ生まれ。1951 年ポモナカレッジを卒業。ハーバート・ハフィフと結婚した後、1961 年に 1 年間のフィレンツェ旅行を計画する。しかしハフィフはローマに移り住み 8 年近く滞在、「ポップ・ミニマル」と呼ばれる作品群を現地で制作展示することとなる。これらの作品は 2016 年 Fergus McCaffrey New York にて初めてアメリカで公開された。1969 年カリフォルニアへ戻り、映像、写真、サウンド・インスタレーションの実験のため絵画制作を一度離れ、カリフルニア大学アーバイン校で修士課程を修了。

1971 年ニューヨークへ移住。別メディアの実験的な期間を経て、絵画ではなく、紙の表面を上から下へと順に垂直方向の線でうめていくという実験的なドローイング制作を行うようになる。この方法はのちに「カラー・スタディー」と呼ばれるシリーズで採用されることになる。1972 年から 73 年にかけ制作された《An Extended Gray Scale》では、黒から白へのグラデーションを１年近くかけ描いた。自身の目で見分けられる限りの色彩の差を標準的な 22 インチ角の 106 のコットンキャンバスに油絵具で描いた。本作品は 2015 年 Art Basel Unlimited で完全な形で展示された。
1974 年から 81 年にかけ、ソーホーとパリにギャラリーを持つ Sonnabend Gallery で 8 年以上展示を行い、その間展開された 1974 年「Mass Tone Paintings」、1975 年「Wall Paintings」、1976 年「Pencil Drawings」、1978 年「Neutral Mix Paintings」、 1979 年「Broken Color Paintings」の作品群はアラナ・ハイスの牽引のもとクロックタワーにて発表され、1981 年に「Black Paintings」の作品群を制作。これらはのちに「インベントリー(The inventory)」と呼ぶ絵画シリーズを構成することになる。

MoMA PS1(ニューヨーク・1990 年)、ハウス・コンストルクティヴ美術館(チューリヒ・1995 年)、FRAC Bourgogne(フランス・ディジョン・2000 年)、ジュネーブ近現代美術館(MAMCO・2001 年)、ラグーナ美術館(カリフォルニア・2015 年)、ク ンストハウス・バーゼル(スイス・2017 年)、クンストムゼウム・ザンクト・ガレン(スイス・2017 年)、レンバッハハウス美術館(ミュンヘン・2018 年)、ポモナカレッジ美術館(カリフォルニア・2018 年)、 ジュネーブ近現代美術館(MAMCO・2019 年)ほか、各国美術館での個展多数。2018 年カリフォルニア・ラグナビーチにて没。

ファーガス・マカフリーについて
ファーガス・マカフリーは 2006 年の設立以来、元永定正、白髪一雄、高松次郎など戦後日本美術の国際的な評価を確立させるうえで中心的な役割を担ってきました。マーシャ・ハフィフ、ビルギット・ユルゲンセン、リチャード・ノナス、ジグマー・ポルケ、カロル・ラマなど独創性に富んだ気鋭の西洋作家の作品展示も行なっています。日本の美術や文化と深く沿うため 2018 年 3 月、ロ バート・ライマン展を皮切りに東京・表参道にスペースを開設。ニューヨーク、東京、サンバルテルミ島の 3 箇所にギャラリースペースを持つ。

プレスに関するお問い合わせ:
Tel: 03 6447 2660
Email: tokyo@fergusmccaffrey.com